



萩市須佐地域

公民館だより

令和6年

6月

第611号

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

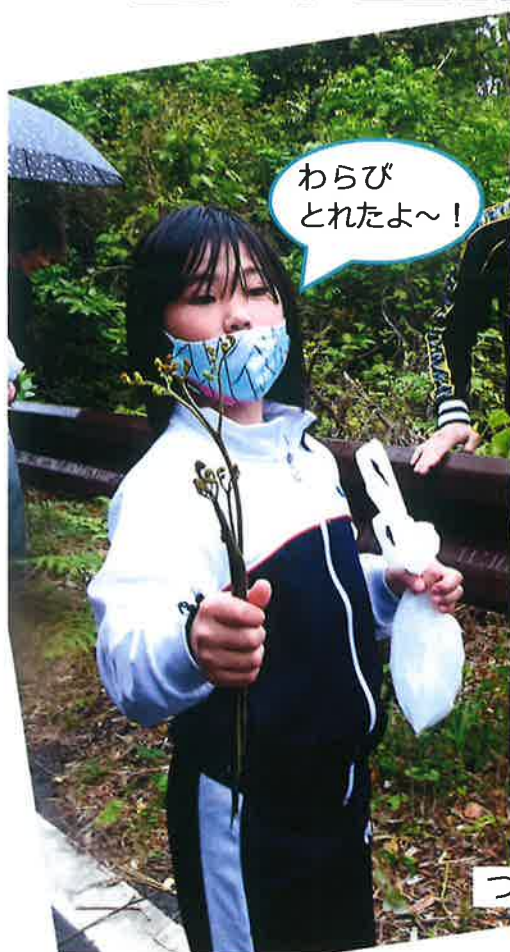
集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 TEL08387-6-2310 FAX08387-6-2030

弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 TEL08387-8-2044 FAX08387-8-2212

特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

『春の山菜、みつけたよー!』



つわぶきの館から沖浦入り口付近を散策

今月の話題

- 久々のふれあいウォーク!
雨の中の山菜採り・・・・・・・・・・2P
- 令和6年度最初の公民館学級
さつき学級・あおば勉強室(須佐)・・・・・・・・3P
- 地域トピックス・・・・・・・・・・4P
ゴールデンウィーク、春花いっぱいコンクール
- 40年前の須佐・・・
須佐湾に「釣堀」が出来た日・・・・・・・・9P



昼食の様子(須佐公民館)

『春』を探そう…

雨の中、山菜採りを楽しむ参加者！



4月29日（月）昭和の日、須佐スポーツ振興会須佐支部が主催する「須佐ふれあいウォーク」が久々に開催され、小・中・高生含む25名が参加し、海苔石周辺を歩きました。

この日は、天気予報通り朝から小雨が降り出し、開催するかどうか危ぶまれましたが、急きよ須佐公民館から海苔石へ歩くコースを、集合された方から海苔石まで車で運び、そこから歩いて須佐公民館へ帰る逆コースへと変更しました。

いろんな種類の山菜がとれたよ

また今回は、昨年悪天候で出来なかった、春の山菜を採って天ぷらにして食べるのを目標に、コシアブラやくず、わらび、つわぶき、アザミ、タラの芽、よもぎ、アケビの葉を見つねながら歩きました。

つわぶきの館周辺には、お店の名前のつわぶき（まだ葉が開かないやわらかいもの）やよもぎがあり、参加者は早速たくさん採ってビニール袋へと入れていました。

須佐公民館の館長が、「ここに〇がある」と説明すると、子ども達



雨の中、元気に歩く参加者

も一生懸命探していました。親子4人家族で参加したお父さんは、「これ、楽しいな！」と言いつつ、子どもの頃に返ったように、山菜採りに夢中になっていました。

雨がだんだん強くなり、傘もなく、帽子もかぶっていない参加者は、びしょぬれになりながらも、あちらこちらと左右の道端や木々を見ながら歩きました。（途中、車で移動しながら…）子ども達は、雨に濡れてもお構いなし。大きなつわぶきの葉

を茎から採り、それを傘がわりに頭の上にかざして「ねえ、見て！」と言って、雨を嫌がるどころか、逆に楽しんでいました。
しかし…、さすがにもうこれ以上は、というところまでになると、山菜も結構採れたので、車で須佐公民館に帰りました。

高校生は山菜天ぷらに挑戦！



ここから、まだまだお楽しみ場面が満載！採取した山菜を種類ごとに分け、それを丁寧に水洗いして水気を切り、天ぷら粉をつけて天ぷらにしてみました。調理室と講座室の2カ所に分かれ、みんなで協力しながら調理を進めました。

山菜を最後まで揚げていたのは、高校生組。普段、なかなか公民館行事に参加しない高校生が、塾の先生の呼びかけに応じ、4名が参加。率先して天ぷら調理に挑みました。

油の温度で、熱くなるのを我慢し



上手に揚げ物をする高校生たち

ながらどんどん山菜を揚げていきます。その手つきは慣れた様子…。（油をしつかりきらずに、バットへそのまま移していたのが少々気になりましたが…）最後まで1人の生徒が頑張つて揚げ終わると「疲れたあ」と、つい本音を吐いていました。

いよいよ試食タイム！

「いただきますー！」の合図で、揚げたての山菜を自分のお皿にとり早速食べました。大人は、おいしそくに食べていましたが、子ども達の評判はいま

いち。一口食べてちよつといやな顔をしていま



おいしそうに揚がったタラの芽

した。高校生たちは、どれも食べるように努力してはいましたが、一番気に入ったのは、よもぎとくずみでした。小学生は、別に用意したサツマイモの天ぷらが気に入ったようです。
たくさんあった山菜の天ぷらでしたが、お皿一つ分だけが残り、後は皆さんのお腹の中へと入りました。こうやって世代を超えて交流できたことは、貴重な体験でした。また、是非参加してほしいと思います。

公民館学級

あなたの体力は どれくらい？



須佐さつき学級

令和6年度第1回目のさつき学級が5月16日（木）に開催されました。開講式では、須佐公民館館長から「とにかく、いろんな行事に出てきてください。家から出ることでいろんなつながりができますよ」と参加者に挨拶されました。

今年度は「体力を維持し、安全・安心な生活を送ろう！」をテーマに年6回開催する予定です。

第1回目は、弥富診療センターの



わきの下や背中を伸ばすストレッチ

作業療法士、赤木正雄さんと保健師の大賀陽世さんの指導で、体力測定と簡単に座ってできるストレッチを須佐文化センターで行いました。

まずは、みんなで「ちいと体操」

をしました。最初は、ふくらはぎや太もも、腕、肩、腰、頭と筋肉をもみほぐし、その後、認知症予防として片足を浮かしてひらがなの文字を書いたり、立ってその場で足踏みをする有酸素運動を行ったりして、ちいとが結構な準備運動となりました。体力測定では、歩行、片足立ち、握力、タイムアップ&ゴー（いすから立ち上がって3メートル先の目印を折り返し、再びいすに座る）の4つのことを行いました。



握力を測定する参加者

今回の結果で、皆さん、自分の体力がどれくらいあるのかを知ることができました。これを元に、今後ストレッチを続け、また、いろんなところへ出かけて体力を維持してほしいと思います。

ホウ酸団子で ゴキブリ退治！



須佐あおば勉強室

5月21日（火）、

令和6年度第1回目

の教室を開催し、

「ゴキブリ団子作り」

を行いました。



この団子作りは、昨年度も作ったのですが、結構評判がよく、「またやりたい！」との声もあり、また、毎年続けてやることで、ゴキブリがいなくなる効果も高いことから、今年度も続けて行うことにしました。一班5人の3班に分け、班の人数分の生地を作り、一人30個ずつ作って持って帰れるようにしました。

【ホウ酸団子の作り方】

（一人15個分）

■材料

ホウ酸75g、玉ねぎ60g
小麦粉（強力粉）60g
砂糖6g、牛乳小さじ1



■作り方

①玉ねぎの皮をむいて、おろし金ですりおろす。
（汁も捨てないで）

②全部の材料をボウルに入れて混ぜ、耳たぶくらいのやわらかさになるまでこねる。

③3日から一週間、白っぽい粉が吹き出るまで直射日光で乾燥させれば出来上がり。



スプーンで団子をキャップに詰める参加者

出来上がった団子は、お家の中のゴキブリが出やすい場所へ置きます。段ボールや人の出入りするところへも、ゴキブリがいるので、忘れずに置きましょう！少しトラブルもありましたが、参加者はワイワイ、ガヤガヤ、おしゃべりをしながら終始、楽しそうに団子を作っていました。

ホウ酸は、薬局やドラッグストアなどに置いてあります。

皆さんも、ホウ酸団子の効果を是非、試してみても如何でしょうか？

スマホなんでも相談所 はじめました！

須佐公民館

まいど！地域おこし協力隊の山本です。須佐公民館にて「スマホなんでも相談所」を5月13日(月)に初めて実施しました。当日は6

人の相談者の方々にお越しいただき、LINE(ライン)のアルバ

ムの見方やシステムアップデートの仕方、各種ポイントの交換方法や航空券チケットアプリの使い方など、色々な相談内容を持って来ていただきました。内心、「解決できなかつたらどうしようか」と心配していましたが、相談者の方々と一緒に調べながら、無事にすべて解決することができて一安心の初日でした。

この相談所は、スマホに関するお悩みをなんでも持つてきていただいて、僕と一緒にマンツーマンで、なんでも解決していく相談所です。

開所日には9時30分から16時30分まで私が相談スペースにいて、ふらっと立ち寄って頂けるように努めています。

これからも、月に2回のペースで続けていけたらなと思います。これからスケジュールは回覧にてお知らせしますので、もしどしご参加ください！

ガラケーやパソコンにも立ち向かいますよ！一緒になんでも解決しましょう！よろしくお願い致します！以上、山本でした。おおきに！



山本さんを囲んでスマホを学ぶ地域の皆さん

【開所予定】

日時 6月10日(月)・24日(月)

9時30分～16時30分

場所 須佐公民館

※参加費無料・予約不要・

一人原則30分

クラブ活動紹介

元気な高齢者を支援する「生き活き教室」では、いろんな活動を展開しています。このコーナーは、それぞれのクラブ活動の指導者や会員さんが、どんな思いで活動をされておられるかを、活動内容とともに紹介していきます。

【生き活き体操】

美原愛子(健康運動指導士)さんを講師に毎月第3木曜日朝8時45分から9時30分まで活動しています。

へ美原先生からへ

60歳以降は筋力が落ちやすいので、筋力を落とさないことを目標に筋トレを中心に指導しています！これからの季節は、農作業が繁忙期を迎えるので、日ごろから筋トレやストレッチをする事で作業後の疲労が軽くなります。

一人では続けにくい筋トレやストレッチも大勢で声をだして活動すると続けることができます。筋トレといっても負荷は自分の体重(自重)だけで、自宅でもできる方法を手取り足取り教えますのでぜひ一緒に活動しましょう！

生徒からへ

日頃からの運動不足が気になり、友人から誘ってもらって参加しています。先生や一緒に参加している方々のおしゃべりが楽しく続けることができます。

農作業後の疲労をいっになく感じられるようになり、身体を気にするよう



きついけど、後はスッキリ！

になり、そんな時に友人からの誘いで生き活き体操を知り参加するようになりました。参加を続けるうちに、筋力がついたのか、草刈りをしても体のだるさを感じなくなり、肩こりもなくなりました。確かに厳しい指導があるときもありますが、みんなで活動するので大変ではないです。月に一回ではありますが、自分の身体に耳を傾けながら一緒に健康寿命をのばしませんか？

地域トピックス

ゴールデンウィーク

賑やかに！

5月の大型連休に入った須佐地域では、昨年度と少し違った風景が見られました。

須佐駅前

「わくわくフェスタ」開催！

5月3日（金）、4日（土）の2日間、須佐駅前には店頭販売が並び、訪れる観光客を楽しませていました。須佐中学校では、生徒が須佐を題材にした切り絵をもとにスサギんちやく（小袋）作りを提供。萩のジオツリズムでは、お菓子がゲットできるスマートボールのゲームボード、弥富そばの石臼体験では、自分で臼を



中学校ベース：きんちゃく作り



石臼体験をする親子

ひき、出来たそば粉でそばがきを食べる体験をしました。萩阿武商工会では、高校生がガラポン抽選会を行っていました。

その他、唐津焼の販売や、4月下旬から福島友美さん（野頭）が地元フルーツなどを使ったジェラートを販売しており、この日は気温も高く、観光客や須佐地域の方も買い求め、「おいしい！」と大人気でした。また、中・高生もお客さんとのふれあいを楽しみながら、イベントに勢を出していました。

毎年人気のフィッシングパーク

須佐湾フィッシングパークも、3日から多くの方が訪れ釣りを楽しんでいました。今年はなかなか魚が釣れないという話の中で「3日に大きなヒラメが釣れたんよ！」という飛び入り情報を聞くことができました。

5日の子どもの日は、悪天候でしたが、その他は天候に恵まれ、家族連れなども釣りを楽しんでいました。

春の花いっぱいコンクール 審査結果

毎年恒例の「萩市春の花いっぱい運動」がありました。今年は、全体で35件の応募があり、そのうち須佐地域からは、4件の応募がありました。今後も、たくさんのお花を飾って、地域を盛り上げていきましょう。

【地域・団体の部】

銀賞 須佐公民館

放課後子ども教室



【学校の部】

銅賞 育英小学校



審査員から「よくできている」と褒められた文化センター前の花壇



校舎裏の花壇



玄関横の花壇

努力賞 須佐中学校

子育て支援日記

【テーマ／私の子育て】

私が子育てでやらかしたこと

須佐中学校教頭 佐藤雄吾

「仕送り求ム」「今年の授業料振り込みをよろしく」このようなやりとりが主になってしまった今の私の子育て。遠くに下宿する2人の息子からはお金の請求ばかりです。そんな2人が幼い頃はどう向き合っていたのか、思い出してみました。

山口市阿東在住なのですが、萩市のイベントによく参加していました。萩城下町マラソンにはファミリー2kmの部に親子で毎年参加。萩往還35kmを歩くイベントにも親子で参加し、いい汗をかかせてもらいました。

夫婦共働きでどちらも中学校教員。休みの日もなかなか合わず、土日の部活動（バドミントン部）に子どもを連れて行くこともしばしばでした。そんなある休みの日、何かのイベントに参加した時です。司会の方から当時5歳の息子がマイクを向けられ、「お母さんは何のお仕事をしてるの?」と問われ、「英語のせんせー」と即答。次に「じゃあお父さんは何をしてるの?」と問われた息子は即答「バドミントンのせんせー」と!?

赤面するとは、このことです。幼い息子には父がバドミントンをしていう姿しか印象になかったのでしょうね、反省。（本当は社会科教師だ、「社会のせんせー」と言ってくれ、息子よ!）

また、これは下の子が小学校6年生の時。小学校の運動会で親子競技



に参加しました。この学校では毎年「子ども対親のリレー」が行われていました。例年、6年生ともなると子どもたちの走力もたくましく、子どもが圧勝して、親は足がもつれたり、息を切らしながらゴールするのがお決まりでした。

ところが、この時の親チームは強者（つわもの）がそろっており、序盤から子どもチームをリードし、差を徐々に広げていく走りでした。アンカーは息子と私。私がバトンを受け取ったとき、それなりに差がついていました。軽く流して走り始めましたが、なかなか息子が追いついてきません。「マズイ、このままだと親チームが勝つてしまい、6年生の思い出が・・・」と頭の中で考えているうちに、最終コーナーへ。「えい、仕方がない!」と思い、ゴール手前で自ら脚をもつれさせて大きくダイブ。豪快に転倒した横を息子が走り抜けゴール。会場は大いに盛り上がりました。我ながら巧みに転倒することができたかと納得していましたが、転倒したときに打ったあばら骨の痛みがなかなか引きません。3日後に受診したところ肋骨（ろっこつ）の骨折と判明。その話を当時受け持っていた中3のクラスで話したところ大爆笑。いまだにそのクラスの教え子たちに会うと「ろっこつ先生」というあだ名で呼ばれます。今になって自分の子育てを振り返ると、そんな笑い話になるような思い出しかありません。もちろん、つらく厳しい時もありましたが、そういうところは妻が支えてくれていたのだと思います。

基本的に我が家は「自分のことを何でも話す、そして聞く」ことをしてきました。親子とも今日一日にあった出来事を食卓や移動中の車で話す、それを家族みんなが聞く、そんな時間を多くもっていました。別に何か感想を求めるのではなく、聞いてもらうだけで安心できるのです。そのおかげか、その後の中高浪人時代でも子どもの考えていることはある程度理解できていたかもしれません。

今の世の中は自己主張をしつかりして自分を表現し、自己PRをしていくことが求められています。しかし、それと同じくらい「聞く力」は大切です。まず聞いて、相手を受け入れることで前向きな関係が生まれていくのだと思います。

「話をする、話を聞く」当たり前前のことですが、そんなことをしてきた子育てだったのかもしれない。





旧須佐町中央公民館

山口県立図書館大会が開催

先々月号でお話しました、県立図書館協議会主催の図書館研修大会が、山口市山口県教育会館で10月に開催されました。当初の話(須佐図書館に

研修に来られた際)では、研修会の前座として須佐図書館の取組の状況を説明してほしいとの案内でしたが、実際には24時間図書の話が巷に広まったこともあり、「24時間図書館の現状」という事例発表となりました。

実際に24時間図書館を見ていない方にとっては、興味津々なところだったのでしょう。当日は図書館職員に限らず、一般の参加者の方も多数参加されたと聞きました。

教育会館は、会館の併設ホールとして固定イスで約500名が入る施設です。研修会でしたが舞台から見ると、半分程度が埋まっていた気がします。

開会行事に続き、いよいよ本題の研修会の事例発表が始まりました。ドキドキしながら、私の持ち時間が

始まりました。

まず、最初に須佐町の位置や地域の様子を説明し、24時間図書館をつくることとなった経緯を説明、特になぜ須佐町に24時間開館の図書館が必要だったのか？

まず最初に、①山口地方法務局須佐出張所の廃止による官舎の再利用。



事例発表を行った山口県教育会館ホール(左)

続いて、②須佐町の住民の生活サイクルを考えると様々な形態があり、昼間だけの利用では困ること。最後に③須佐町は、教育の町で大正初期

には、県立図書館の移動文庫「育英文庫」が育英小学校に設置されていたこともあり、非常に教育熱心な地域であり、これからの事を考えると、24時間利用できる他例のない施設(リサイクル)を造ろうとなったことなどを・・・詳しく説明しました。

舞台からは、来場者の顔も見え、何度もうなずかれている姿にこちらも安心したところです。

その後、来場者からの質問に答える場面が設けられ、多くの質問が出ました。中でも山口市民の方の質問が今でも印象に残っているので紹介したいと思います。

山口市には図書館がない

(質問)、「当時全国の県庁所在地である市に市立図書館が無いのは、長崎市と山口市だけで、聞くところによれば長崎市は図書館建設が予定されているとのこと、何度か山口市長にも訴えたのですが、市長は、山口市には立派な県立図書館があるので、山口市には必要ないとの一点張り。私達市民としては、普段着(気兼ねなし)で行ける図書館が欲しい(県立図書館は普段着では行けない気がする)。何か私に良い提案はないでしょうか。」

(須佐でも造ったのだから・・・?)

中々複雑な大きな質問に、少し会場は静まりましたが、私は少し場を和らげるために、「そうですね・・・普段着で行ける図書館、ちなみに須佐図書館は、パジャマで行けますからね・・・。」(会場爆笑)

切実な問題ですが、住民一人一人の図書館としての基盤づくりを住民運動としてすることが大切ではないかと回答しました。

山口市との交流が始まる

その後、これを切っ掛けに山口市とは、交流が続き、当時山口市で宙に浮いていた施設の再利用(県立体育館解体後の文化交流プラザ問題)後に動き出すことになりました。

初代の館長さんは何度も須佐を訪れ、そのたびに24時間図書館の貸出しシステムの方法を伝授しました。当時は無かった図書館システムのノウハウが山口市図書館にも生かされることとなり、山口市は、平成15年に山口情報芸術センター内に念願の山口市立図書館をオープンすることになりました。須佐図書館のDNAがここにも活かされることとなりました。

つづく



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタムラが、わが町を紹介します。

この度は、少し方向を変えて、須佐と田万川の境界に位置する「犬鳴山」をご紹介させていただきます。

犬鳴山を辿りて

金山谷を自動車で走り、国道 315 号線の金山谷トンネル（760 m）を通り抜け、弥富方面に向かって約 200 m くらい進むと、左側に梅林畑を見て、その側の山道を約 50 m 奥地に入ると、「某家の墓地」があります。

それを更に奥地に進むと、樹令約 50 年位と思われる杉林に入り、直進すると、崩壊した小川沿いに道なき道の険しい藪をかきわけながら山中に入って参ります。

次第に小川はなくなり、道もなくなって急坂となります。その急坂を登ること約 30 分、難儀な山道となります。その山道を登り切ると、山

の尾根を東方向に歩を進めていくと下り坂になった、と思うとまた急坂となる。そのようなアップダウンの尾根道を 4 回位繰り返し返しますが、これを辛抱強く進むと、頂上近くの急登に差し掛かります。



登山道は国道 315 号須佐トンネル

このコース一番の難所で、山肌を這い登るがごとく急傾斜地を約 200 m 位を進みます。

古き呼称は「古櫃山」（こひつやま）と呼ばれていた

ほどなくして、「犬鳴山」（527.5 m）山頂に辿りつきます。頂上は小さな広場になっていて、

中心に三角点の石碑（高さ 40 cm 位）が設置され、その側の雑木に「山口県百名山、犬鳴山、標高 527.5 m、自然を大切に」と記されたミニパネルが取り付けられています。

頂上の眺望は素晴らしいであろうと期待して参りましたが、なんのその、大きな期待外れで、頂上の広場周辺は雑木が一面生え繁り、まったく展望は出来ず、残念な思いを致しました。

登山計画準備の時に、文献を調べた範囲では山頂は展望が開け、西側に白須山（宇田）、真名板山（宇田）、大葉山（宇田）の山々が見られ、一方の北側には、日本海や須佐湾、そして高山等が遠くに見える。広場には三角点の石塚があり、そして、「古



国道 315 号消防弥富出張所付近から見た犬鳴山

櫃山」と記された標柱が立っていると記されていました。

更に、文献では「犬鳴山」と「古櫃山」はいずれ劣らぬ、いい名の山で、どちらが田万川町で、どちらが須佐町の呼び名であるのかわからない、とありました。かつて、その昔は「犬鳴山」を「犬鳴の丘」とも呼んでいた、と記録されています。

山の呼称の由来

更に文献を探り「犬鳴山」の呼称と、その由来を調べてみますと、「犬鳴山」と呼ばれはじめたのは、一説には「ある人が、犬と共に急な山地の滝のぼりをはじめようとしたが、犬が登れないので、その人は犬を背におんぶして滝を登った。その時に、背負った犬が鳴いたことにより「犬鳴山」と呼ぶようになった。」

もう一説には、「奈良朝時代に国境を守る者を村主、または、イナギ（関所の主の呼び名）と呼んでいた。このイナギの名が、イヌナギに変わった。」との説もあると記録されています。

この記録からすると、この地に伝わる呼称は、前者の説が本当ではないか、と思料致します。 つづく



まちの駐在さん



Q：信号機のない横断歩道で、渡ろうとしている人が手を挙げていない場合は、車は止まった方がいいですか？それとも止まらなくてもいいのですか？

A：いいえ、止まらなければいけません

【横断歩道における 交通事故防止について】

弥富駐在所：繁田京祐

歩行者が横断歩道を渡ろうとしている場合は、ドライバーは必ず横断歩道の直前で一時停止、かつ、歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません。

また、横断歩道に接近する場合には、横断歩道を横断中、または、横断しようとする歩行者がいないことが明らかな場合を除いて、

『その横断歩道の直前で 停止することができるような速度』

で進行しなければならないと決まっています。

つまり、手を挙げていなくても、横断歩道を渡ろうとしている人がいる時は、横断歩行者の横断を妨げないように、減速、一時停止をしなければいけないのです。

信号機のない横断歩道を通過する際は、「横断歩道の近くに人がいるかもしれない」「横断歩道を渡るかもしれない」と常に意識し、歩行者が横断歩道を横断しようとしている時は、

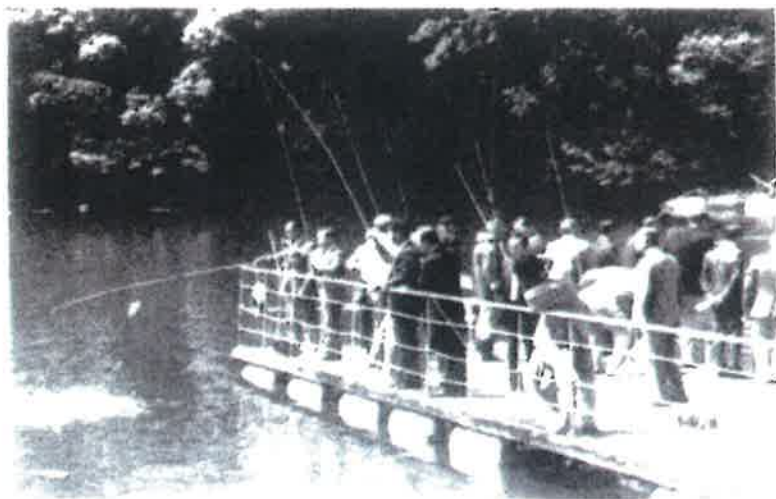


「お先にどうぞ」のハンドサイン

を实践して、交通事故防止に努めましょう。

ダイヤ (◇) マークの道路標示は、『前方に横断歩道がある』ことを示しているの、発見した場合は注意して進みましょう。

費約一千三百万円（うち、町費補助金三百万円）、釣堀面積約一万㎡で鯛三万五千匹、ハマチ七千匹をはじめ黒鯛、石鯛、スズキを養殖しており、販売をはじめ、直接魚を釣って楽しむこともできます。このオープン式には、先に姉妹縁組をした徳山市から、小川市長、浅田市議会議長ら22名が、本町からは、中村町長、内本議会議長をはじめ関係諸団体の長ら62名が出席しました。式の終了後、徳山市の皆さんは、船で須佐湾を観光、日本海の雄大な景観と、新鮮な潮の香りを満喫しました。



オープン時の釣堀の様子（写真はS 60. 6. 15日発行紙から）

あの頃の須佐は 40年前の須佐を 振り返る…「広報すさ」

このコーナーは、元気だった頃の須佐町を「広報すさ」から引用し、住民の皆さんに当時の元気な姿を届けたいと思います。

名勝須佐湾に 養殖魚現地直売所（釣堀）オープン！

～オープン式に徳山市を招待～

造る漁業を目指し、昨年11月より須佐漁業協同組合が事業主体となり養殖漁業施設事業を計画、磯釣りのだいご味と、新鮮で安価な魚の供給をモットーとして、4月29日（月）須佐二軒屋に「養殖魚現地直売所（釣堀）」がオープンしました。

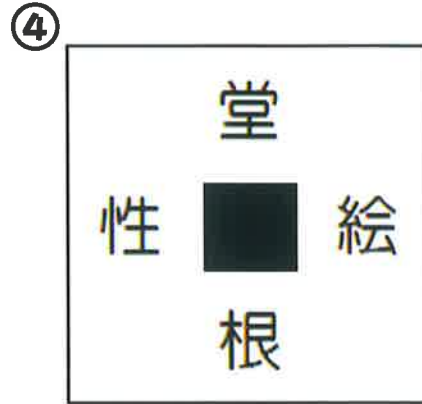
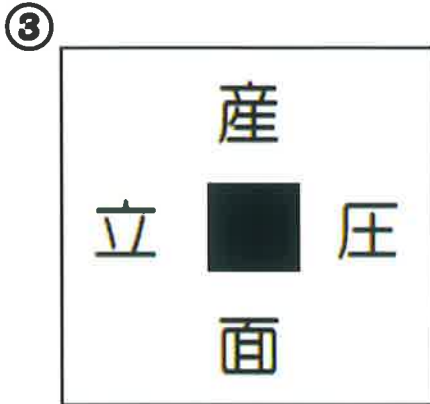
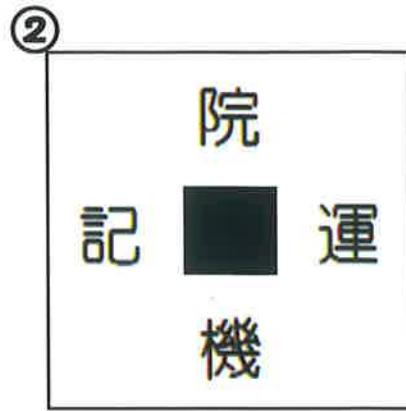
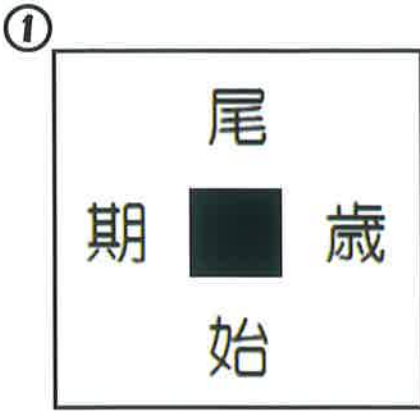
総事業

費約一千三百万円（うち、町費補助金三百万円）、釣堀面積約一万㎡で鯛三万五千匹、ハマチ七千匹をはじめ黒鯛、石鯛、スズキを養殖しており、販売をはじめ、直接魚を釣って楽しむこともできます。このオープン式には、先に姉妹縁組をした徳山市から、小川市長、浅田市議会議長ら22名が、本町からは、中村町長、内本議会議長をはじめ関係諸団体の長ら62名が出席しました。式の終了後、徳山市の皆さんは、船で須佐湾を観光、日本海の雄大な景観と、新鮮な潮の香りを満喫しました。

おうち時間を楽しく過ごそう！

今年度初めてのおもしろクイズコーナーです。
余暇を利用して、家族みんなで次のクイズに挑戦しましょう。
今回は「漢字穴埋めクイズ」です。
【Q、次の①～④の■に入る漢字を、それぞれ応えましょう。
その後、その■に入った漢字を並べて出来る「四字熟語」は何
でしょうか。】

※答えは最終ページにあります。



四字熟語は？ = ○○○○

伝えよう須佐地域の味

皆さんは、須佐地域に伝わる食の味を知っていますか？

これまで、何度かお伝えしたものもありますが、もう一度ここで皆さんにお伝えし、須佐地域の食文化を後世に残していけたらと思います。

《ぬた和え》

ぬた和えは、

なますの一種で酢味噌であえた昔ながらの郷土料理です。

ぬたの由来は、味噌のどろりとした見た目が沼田を連想させることから、この名前が付いたと言われています。

ぬたに入れるものは、ねぎなどの野菜類、イカやフカなどの魚類、青柳などの貝類、ワカメなどの海藻類を、酢味噌やからし酢味噌で和えた料理で、特に何が必要はいらないという決まりごとはありません。

今回は、イカを使った料理を紹介します。



■材料（4人分）

イカ100g、ねぎ200g（からし味噌）
練りがらし小さじ4、
白みそ大さじ1、砂糖大さじ1
酢大さじ2、調味料少々



■作り方

①イカは足などをとった上身を用い、細切りにし熱湯をかける。

②ねぎは洗って、2～4cmの長さに切り、酢としょうゆをふりかけ下味をつけておく。

③からし酢味噌を作る。

すり鉢に白みそ、砂糖、練りがらしを入れてよくすり、酢を少量ずつ加え、なめらかにすりつぶす。

④食べる直前に①②をからし酢みそであえ、器に盛りつける。

※イカを湯びく時には、さっと湯びく方がよい。ゆっくり湯びくと硬くなる。



生涯学習作品コーナー

【俳句】

島めぐる小舟の揺れやかしわ餅

(松原) 澄川千枝



庭にバラ真赤にひとつ唄のごと

(山根丁東) ゆめはるか

【短歌】

新緑を水面に移すせせらぎの

水辺に蛙ポチャンと落ちる

(青葉台) 田村雅利



青天に力いっぱい伸びる竹

「力!!貸して!」と祈る我あり

(山根丁東) ゆめはるか

足を上げ腰を伸ばして若づくり

じじばば遠出車中菓子つき

坂道は気持ち進目ど足はそこ

この頃の我時間がかかる

昼下がり水蓮鉢に咲く花と

泳ぐメダカの愛らしいこと

香り立つだいだいの花今盛り

鈴なり果実幾年月も



須佐老人クラブ 美男美女会

須佐の偉人伝 大塚均

87

このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。



大塚 均 (1911-1998)

国宝日光東照宮陽明門記念切手

国宝日光東照宮は徳川家康の霊廟として元和3年(1617)に創建され、現在の主要な社殿は、寛永13年(1636)、三代将軍家光により大造替が行われたものです。江戸期は20年毎に19回の修理が施されるなど、幕府の手厚い庇護されました。昭和37年(1962年)頃の改修が終了した事を記念し40円郵便切手が発行されたものと思われる。大塚均55歳時の作品です。

2024		6月 地域カレンダー				須=須佐公民館 学=学校・保育園行事 子=子ども対象行事 弥=弥富公民館 =スポーツ関係 弥G=弥富グラウンド 生=生き生き教室 保=保健センター	
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
						1	
2 須佐ソフトバレーボール大会(須中)8:30 弥富グラウンドゴルフ大会(弥G)8:30	3 麻雀クラブ 13:00 ピンポンクラブ 13:30	4 須 パッチサークル 9:30	5 つどい会 10:00 色えんぴつ画教室 13:30	6 	07 手芸クラブ 9:30 囲碁・将棋 13:30	08 鈴野川ほたる祭り 18:30	
09 学 育英小参観日	10 エコクラフト 9:30 ピンポンクラブ13:30	11 須 あおば勉強室 9:00	12 歩こう会 8:45	13 生涯学習作品展示準備 13:30	14 	15 生涯学習発表会(作品展示) ~17 学 須中オーブンスクール	
16  家庭の日	17 麻雀クラブ 13:00 ピンポンクラブ 13:30	18 生涯学習作品片付 9:00	19 	20 生き生き体操 8:45 学 須佐保育園参観日・子育て講座	21 弥 物作り教室 9:30 手芸クラブ 9:30	22 	
23	24 エコクラフト 9:30 ピンポンクラ 13:30 麻雀クラブ 13:00	25 パッチサークル 9:30	26 弥 グラウンドゴルフを楽しむ会 9:00 色えんぴつ画 9:30 音楽療法 13:30	27	28 囲碁・将棋 13:30	29 	
30							

生涯学習発表会 作品展示

○期間 6月15日(土)～17日(月)
○時間 9時～16時 ※最終日は午前中まで
○場所 須佐公民館

皆さん、見に来てね!

- 須佐あおば勉強室
地域探訪①
「もっと須佐地区を知ろう!」
- とき 6月11日(火) 午前9時～12時
- ところ 須佐公民館集合
- 参加費 300円
- 申込みは 須佐公民館 電話 6-2310へ
- 物作り教室
「フラワーアレンジメント」
「竹を使って お花を生けましょう」
- とき 6月21日(金) 午前9時30分から
- ところ 弥富交流促進センター
- 講師 齊藤洋子(9区)
- 参加費 500円
- 持参物 花ばさみ、またはキッチンバサミ
- 申込み 6月14日(金)までに 弥富公民館 電話 8-2044へ

伝言板



毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は「16日」です
★家族みんなで過ごしましょう!

須佐地域の人口 (R6.4月末現在)			
	世帯数	人口	前月比
須佐	944戸	1,692人	(△3人)
弥富	217戸	398人	(△1人)
合計	1,161戸	2,090人	(△4人)
昨年比	世帯数△16人		人数△57人

編集後記

5月26日(日)は須佐地域のクリーン作戦でした。大人だけでなく、中学生も一緒に頑張って作業を行いました。みんな協力し、まちがとてきれいな場所になったと思います。お疲れさまでした。



草を集める中学生(入江地区撮影)

★クイズの答え=本末転倒(ほんまつてんとう)